

アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.



© Kyoko Murase Courtesy of Taka Ishii Gallery Photo: Kenji Takahashi

アートをたのしむ手がかり

[クラシック・コミュニティ横浜]

〒244-0003

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町1978-1

0120-384-233

アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.

「アートあ」は、アートアクションの愛称。はじめてアートにふれてみる。毎日にアートをプラスする。アートをとおしてモノや社会の見え方が変わる。そんな「あ」とする感動や体験をしていただきたい。その思いからスタートしたプロジェクトです。

CONTENTS

002

WINTER 2023

- 03 アートの紹介 — アートの風 —
- 07 BGMの紹介 — 音のそよぎ —
- 11 香りの紹介 — 香り立つ・・・ —
- 13 フラワーの紹介 — 季節を愛でる —
- 15 寄稿エッセイ
— 音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)
[クラシック・ソムリエ 田中 泰]
- 17 イベントの紹介
— アートワークショップ

発行/株式会社
編集長/サトマキ()
編集・構成/栗原 勲(RED)、下村 尚明()
アートディレクション・デザイン/蔵持 一石(RED)
校正/田山 隆之、原園 宏美、池田 達朗、関 都、高城 優子(クラシック・コミュニティ横浜)

アートアクション・タイムズ 編集手記

こんにちは。横浜のみなさんにはおなじみ、サトマキです。

さて、夏からはじまったアートアクション、みなさまの施設・クラシック・コミュニティ横浜では、現代アートの展示、フラワーデザイナーさんによるお花、アロマセラピストさんによる香り、プロの選曲家さんによる多彩な音楽、そして現代作家さんを招いてのワークショップを実施しました。今回はその広報誌二号目です。

毎回異なる現代作家さんを招いてのワークショップ、いかがでしたか?毎回楽しかったですよね。私も、みなさんが素敵な作品を手作りしてワイワイしているのを見て、とても楽しかったです。ご参加されていないみなさんも、1階のラウンジに飾られたアートを観て、楽しまれたのではないのでしょうか。あれは、入居者の一部のみなさんが、アーティストさんと一緒に作られたアート作品です。

ワークショップは終了してしましますが、現代アートの展示、フラワーデザイナーさんによるお花、アロマセラピストさんによる香り、プロの選曲家さんによる多彩な音楽は、2月まで続きます。引き続き楽しんでいただけたら幸いです。



FINE ART



© Kyoko Murase Courtesy of Taka Ishii Gallery Photo: Kenji Takahashi

FINE ART 001

村瀬 恭子
Kyoko Murase

鳥使い(グレー)

480×360mm Gouache, color pencil on paper 2011年

作家プロフィール：1963年岐阜市生まれ。86年に愛知県立芸術大学を卒業、89年に同大学院修了。90年から96年まで国立デュッセルドルフ芸術アカデミーに在籍。主な個展に、「Fluttering far away」豊田市美術館(愛知、2010年)、「セミとミミズク」ヴァンジ彫刻庭園美術館(静岡、2007年)など。

アートの紹介

アートの風

みなさんの施設に飾ってる作品は、現代アートといって、現代(今、同時代を生きている)のアーティストさんが描いた作品です。

これらはみな、個人のコレクターさん(所有者さん)からお借りしてきた作品群です。その所有者さんの、このコレクションに込めた思いを伺って来ました。今回は柵木頼人さんです。



art collector

柵木 頼人 さん 株式会社ませぎ型紙製作 代表取締役社長

僕は洋服の為に製図を作る仕事をしています。18歳の頃から毎日洋服を作ってきました。7年程前に事務所のインテリアを明るくする為にアート作品を飾った事をキッカケとして、アートのコレクションを始めました。コレクションを始めた頃に子供が生まれまし

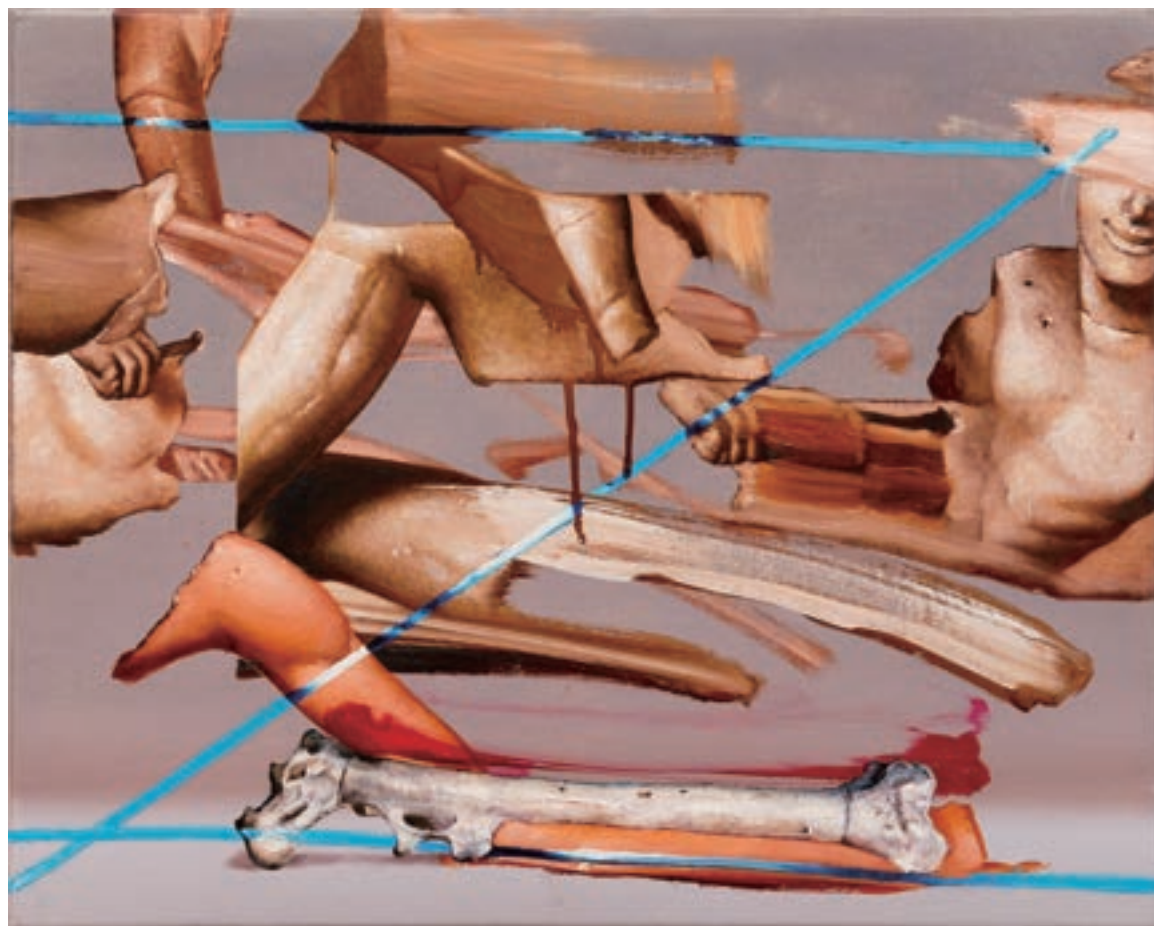
たので、自宅に飾った時に家族や自宅が明るくなる作品や、家族をテーマにした作品を多く集めています。今回は僕の自宅に普段、飾っていた作品を中心に作品の選択を行いました。空間を明るくするアートを楽しんで頂けたら嬉しいです。

art director サトマキ



タイトルをみる。

そこから、あなたのアートの旅がはじまります。



MUSEUM HAUS KASUYA, courtesy of ANOMALY

FINE ART 002

今津 景
Kei Imazu

Red & White without Blue

400×500mm Oil on canvas 2019年

作家プロフィール：1980年山口県生まれ。現在インドネシア在住。多摩美術大学大学院を修了、「VOCA 2009」にて佳作賞受賞。2017年ミネアポリス美術館に4メートルを超える作品が収蔵され、2020年、現代における絵画表現を後押しするフランスのPrix Jean François Pratでファイナリストに選出されるなど、大きな注目を浴びている。

みなさん、こんにちは。サトマキです。前の号で、現代アートについて少し話をしました。今回は、現代アート作品を楽しむに観る方法をお知らせします。「キャプション」、ありますよね。作品の下に何か書いてある、小さな紙です。そこには、アーティスト名、作品名、制作年、サイズ、メディア(その絵画が何から出来ているか)が書いてあります。例えば、小西紀行さん「Untitled」。これは題名こそUntitled(名前なし)なので、そこから何かを想像することは出来ませんが、良く見てみると、不思議な抽象画っぽいこの絵、誰かのポートレート(肖像画)のように見えませんか?よく写真館で見かけるあれ、家族写真!かなと思いますか?このように現代アートでも、肖像画は良く描かれるモチーフです。これぞまさに、現代アートの肖像画です。

こんな風に、タイトル(題名)ひとつとっても、その作品をいろいろ考えることが出来るのです。もちろんタイトルで分からないタイトルもあります。Untitled(無題)とかUnnamed(名無し)とか数字の羅列とか。どうして無題なんだろう、何が書いてあるんだろう、そこから絵のことを考えて欲しいから、作家はそう付けているのかも知れませんか。みなさんと私が飾った現代アートについて話をすると、分かりにくい、理解が難しい、という話を聞きます。アート、とつづきにくいですよ。良く分からないですよ。それで良いんですよ。アートを分かって理解する必要なんて無いのです。でも、みなさん、何が描かれているのか興味はおありのようですよ。その時、手助けになるひとつが、「タイトル」です。世界で最も有名な絵画のひとつレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ

リザ」、原題は「La Gioconda」ですが、どうして日本ではモナリザと呼ばれているか。それは、ダ・ヴィンチがフランチェスコ・デル・ジョコンドから妻モナ・リザの肖像画制作の依頼を受けたからだそうです。Monnaは私の貴婦人との意味だそうです。こんな感じで、私が挙げた実例もそうですが、タイトルには、その絵の由来や何が描いてあるかを紐解く鍵が詰まっているのです。解説は何も無いですが、どうぞタイトルから、アートを感ずる考えるきっかけにしてみてください。まずはいったん、自分が興味があるか、どう感じるかを考えてみる、それだけに集中してください。そしてどうしてそう思う?と考えてみてください。何か良いなと思うたら、タイトルを見てみてください。そこから、あなたのアートの旅が始まります。

MUSIC

BGMの紹介

音のそよぎ

このクラシック・コミュニティ横浜には、音楽セレクトターさんたちが厳選した楽曲が、BGM（バック・グラウンド・ミュージック）として流れています。
横浜オリジナルセレクトの1週間をどうぞお楽しみください。



producer
清宮 陵一 さん

NPO法人トッピングイースト理事長/合同会社ヴァイナルソユーズ代表

1974年東京都生まれ。音楽プロダクション・ヴァイナルソユーズではさまざまな音楽家らと協業する傍ら、特別なヴェニューや公共空間でのパフォーマンスを多数プロデュース。トッピングイーストでは地元・東京都に根差したプログラムを展開。2021年『隅田川怒涛』を実施。

今回お聴きいただく音楽は、一週間でひとつのサイクルとして、1日の目覚めから眠りまでの時間を意識できるつくりをしました。また、情景が浮かんで、まるで日本中を世界中を旅する感覚を持てたり、ときに人生を懐かしみ昔話に花が咲く、誰もが知る曲もかかります。プロの選曲家による多彩な音楽をお楽しみください。

医療的視点での
アドバイザー



医師、医学博士

稲葉 俊郎 さん

軽井沢病院 院長・総合診療科医長、信州大学社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東北芸術工科大学客員教授を兼任(山形ピエンナーレ2020 芸術監督 就任)

単著『いのちを呼びますもの』、『いのちのちの いのちへ』(アノニマ・スタジオ)など。

MUSIC SELECTOR

03



ライター

大石 始 さん

地域と風土をテーマとする文筆家・選曲家。旅と祭りの編集プロダクション「B.O.N」主宰。著書に『盆踊りの戦後史』(筑摩書房)、『奥東京人に会いに行く』(晶文社)、『ニッポンのまつリズム』(アルテスパブリッシング)、『ニッポン大音頭時代』(河出書房新社)など。オンラインラジオ「WAH! Radio」で各地の民族音楽を紹介する番組「folkloric」を担当。現在の連載に月刊「東京人」の「まちの記憶、音の風景」など。

MUSIC SELECTOR

02



音楽家

蓮沼 執太 さん

1983年、東京都生まれ。「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、インスタレーション、パフォーマンス、彫刻、映像、プロジェクトなどを制作する。アジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)のグランティ、文化庁・東アジア文化交流史に任命されるなど、国外での活動も多い。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

MUSIC SELECTOR

01



クラシック・ソムリエ

田中 泰 さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スプートニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

ライター

大石 始 さん

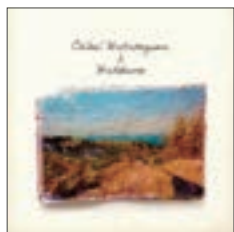


SELECT 主な楽曲

入所者の方々が日々暮らす空間でどんな音が鳴っていたら心地いいだろう？ そんなことを考えながら作品を選ばせていただきました。朝は爽やかな空気に溶け込む静物画のような作品を。昼は他の入所者の方との会話のきっかけになるかもしれない童謡やわらべうた、民謡を。夜は時に健やかな眠りへと誘い、時に懐かしいあの時代へタイムスリップする作品を。皆さんの暮らしにちょっとした色合いを加えることができれば、これほど嬉しいことはありません。



■曲名:1 ■作曲家:AOKI, hayato
■主な演奏家:AOKI, hayato ■録音年:2020年 ■アルバム:MITATE2



■曲名:It is, it isn't ■作曲家:Chihei Hatakeyama & Hakobune
■主な演奏家:Chihei Hatakeyama & Hakobune ■録音年:2014年



■曲名:波 ■作曲家:冥丁 ■録音年:2018年 ■アルバム:夜分



■曲名:Circle Of Life ■作曲家:原摩利彦
■主な演奏家:原摩利彦 ■録音年:2017年

音楽家

蓮沼 執太 さん



SELECT 主な楽曲

音楽は目に見えないものではありません。一日の時間の変化に寄り添うように、な万世不刊な楽曲をセレクトさせてが空間におとずれて欲しいと思って

すが、空間を彩る力があります。一空間の彩りを淡く変化していくよういただきました。常に新鮮な空気感があります。



提供:日本コロムビア

■曲名:ジムノベディ 第1番 ■作曲家:エリックサティ ■録音年:2017年 ■アルバム:エリックサティ、新・ピアノ作品集



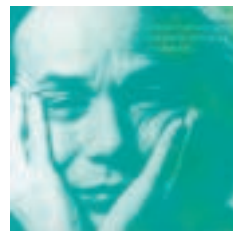
©ユニバーサル ミュージック

■曲名:Thembi ■作曲家:Pharaoh Sanders ■録音年:1971年 ■アルバム:Thembi



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:Thursday Afternoon ■作曲家:Brian Eno ■録音年:1985年 ■アルバム:Thursday Afternoon



提供:日本コロムビア

■曲名:小さな空 (Instrumental) ■作曲家:武満徹 ■主な演奏家:Choro Club ■録音年:2011年

クラシック・ソムリエ

田中 泰 さん



SELECT 主な楽曲

まずは、クラシック史上最大のヒット曲の1つ「四季」を楽しんだ後は、ヘンデルの名作「メサイア」へ、名高い「ハレルヤ・コーラス」が心にしみみます。同じヘンデルの「ハープシコード組曲」は、同年生まれのJ.S.バッハ作品に引けを取らない素晴らしさ。キース・ジャレットの美しいピアノが引き立ちます。そして最後は20世紀最大のクラシックイベントと謳われた「3大テノール」の華やかな歌声で締めくくり。



提供:ワーナーミュージック・ジャパン

■曲名:ヴィヴァルディ:協奏曲集『四季』/Vivaldi:Four Seasons ■作曲家:ヴィヴァルディ/Vivaldi ■主な演奏家:アンネ=ゾフィー・ムター Anne-Sophie Mutter(ヴァイオリン & 指揮)、トロンハイム・ソロイスト Trondheim Soloists ■録音年:1999年



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:ヘンデル:オラトリオ「メサイア」(全曲)/Messiah, K. 572 ■作曲家:ヘンデル/George Frideric Handel ■主な演奏家:ゲオルグ・ショルティ Georg Solti(指揮)、シカゴ交響楽団 ■録音年:1997年



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:ハープシコード組曲集/Keyboard Suite ■作曲家:ヘンデル/George Frideric Handel ■主な演奏家:キース・ジャレット Keith Jarrett(ピアノ) ■録音年:1993年



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:ベスト・オブ・3大テノール / The BEST of 3TENORS ■作曲家:ドヴォルザーク/Dvořák ■主な演奏家:ホセ・カレーラス José Carreras、プラシド・ドミンゴ Plácido Domingo、ルチアーノ・パヴァロッティ Luciano Pavarotti ■録音年:1990年、1994年、1998年

朝の香り「朝の森」



ローズマリー



レモン



フランキンセンス

朝の森のエネルギーを深呼吸

朝の森には、朝露に輝く植物の息吹が満ちています。足もとから、ふくよかな土の香りが立ちのぼり、思わず深呼吸したくなります。グリーンで爽やかなローズマリーやレモンには、心をリフレッシュさせ、頭脳を活性化させて思考をクリアにする作用があるとされます。朝の清々しい森の香りで、最高の朝をスタートしましょう。

夜の香り「夜長の寛ぎ」



ラベンダー



オレンジ



パチュリ

上質なプライベートタイムを

文学や芸術などの世界に心ゆくまで没入、上質なプライベートタイムをイメージした香りです。内面が豊かに満たされる贅沢なひととき。ラベンダーやシトラスの香りがリラックスタイムに寄り添い、大地のように温かなパチュリーの香りが明日へのエネルギーとなって上質な睡眠をもたらします。

AROMATHERAPY

香りの紹介

香り立つ…

玄関ホールで、何やら香っているか？
せんか？
良い香りだと思われましたか？
そうなんです、実は、今回、新たに香りを導入しました。
実はこの香り、香りのプロが施設に合わせて調香（香りを調整すること）してくれた、特別な香りなのです。これから、季節に合わせて、毎回少しずつ香りを変えて、みなさんにお届けします。



IFAアロマセラピスト
アロマスペースデザイナー

大橋 マキさん

頬に触れる空気に、ふと冬の匂いを感じた経験はありませんか？そんなとき、目に飛び込んでくる風景や色、温度、手触りなども香りのヒントにしています。「朝の森」は、ローズマリーやミント、ライムなどの爽快感に、スパイシーなハーブと樹脂特有の重さが加わることで、落ち葉が土にかえっていく豊穡の季節を感じさせます。香りを調合するときは、精油の効能や身体性も意識します。「夜長の寛ぎ」は、安眠を促すラベンダーとシトラスの優しい甘さのなかに、大地を感じさせるパチュリという精油を加えることで包容力や温かみを添えています。

大橋 マキ Maki Ohashi / IFAアロマセラピスト / アロマスペースデザイナー 放送局を退職後、英国に留学。植物療法を学ぶ。アロマセラピストとして6年間の病院活動を経て、アロマ空間演出の他、精油の地産地消や企業ブランディングにも従事。自身が代表を務める一般社団法人はっぶでは、園芸療法を用いた認知症ケアや農福連携にも取り組む。アロマブランド「aromamora」では季節のブレンドを製作。執筆、ラジオ出演、講演多数。

FLOWER

季節を愛でる

フラワーの紹介

このページでは、施設に飾られているお花を紹介しています。

毎月、その時節に合わせて旬なお花を選んでデザインしたフラワーアレンジメントを飾っております。

身近にお花がある日常を通じて、季節を感じていただきたいと思います。



フラワーデザイナー&スタイリスト

松本 由利 さん

日本には四季折々の花々、木々があります。季節を愛で、感じ、味わう…食や文化と同じように花の装飾でも季節感を表現します。そのため、フラワーアレンジメントには、なるべく旬の花を使うようにしています。写真は、秋から冬にかけて飾ったアレンジメントです。ずっと伸びているグリーンはニューサイラン。シンプルでモダンなデザインでありながら、明るい色合いのトルコキキョウを使うことで優しい雰囲気仕上げました。花のある生活で、どうぞ季節をお楽しみください。

松本 由利 Yuri Matsumoto / フラワーデザイナー&スタイリスト

英国人デザイナー、ジェーンパッカーの元でデザイナー、インストラクターを務めたのち独立。「花と食」「花とインテリア」といったさまざまな分野とのコラボレーションレッスンを企画運営。スタイリッシュな花を得意とする。フラワーショップkusakanmuriが主催する「草冠の学校」でも講師をつとめる。



イタリア史上最も 重要な人物と評された ジュゼッペ・ヴェルディ

みなさんこんにちは。施設内に流れる音楽はいかがでしょうか？ 僕が担当するクラシック音楽も気に入っていただけたらくとも嬉しいです。さて、連載2回目となる今回は、イタリアのオペラ作曲家ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)についてです。

19世紀を代表する作曲家ヴェルディは、主にオペラを軸に作曲活動を行い、「オペラ王」の異名を持つイタリア・ロマン派音楽の中心的存在です。代表作としては、『ナブッコ』、『リゴ

レット』、『椿姫』、『アイーダ』などの

オペラ作品のほか、イタリアの文豪アレックスサンドロ・マンゾーニ(1785-1873)の死を悼んで作曲された『レクイエム』などが有名です。彼が遺した作品の数々は、現在も世界中のオペラハウス(歌劇場)で演じられ、『アイーダ』の大行進曲がスポーツ・イベントの応援に使われるほか、『ナブッコ』の「行けわが思いよ、金色の翼に乗って」はイタリア第二の国歌として愛されるなど、ジャンルの枠を超えた広がりによって、大衆文化に深く根付いています。ヴェルディが活躍した当時、イタリアは統一運動の真只中にあり、祖国イタリアへの愛を高らかに歌い上げたヴェルディ作品は、統一運動のシンボル

術や文化、スポーツ等、共通の価値観がコミュニティ形成に重要な要素となることが理解され始めています。ヴェルディが思い描いた「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」こそは、まさにそのモデルケースと言える存在感を放ち続けています。そして、ヴェルディ自身もこの施設の敷地内に、愛する妻とともに静かに眠っています。

*この「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」をモデルとして制作されたのが、ダスティン・ホフマン監督による2012年公開のイギリス映画『カルテット！人生のオペラハウス』です。興味のある方はぜひご覧になってみてください。

とみなされるようになったのです。その結果ヴェルディは、イタリア史上最も重要な人物と評され、ユーロに変わる前のイタリア紙幣(1000リラ)に肖像が採用されるまでになったのでした。

私財を投じて建設した 音楽家のための高齢者住宅 カーサ・ヴェルディ

そのヴェルディが遺したもう一つの遺産にして、「自らの最高傑作」と語ったのが、ミラノにある「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」です。これは、恵まれない音楽仲間の晩年を憂いたヴェルディが、私財を

投じて建設した音楽家のための高齢者住宅です。施設の運営資金には、ヴェルディの死後50年に及ぶ作品の著作権が当てられています。著作権が切れた1962年以降は、多くの篤志家の援助によって施設は存続。現在も多くの音楽家たちが暮らしています。入居資格は、ヨーロッパ市民で65歳以上のアーティスト、作曲家、指揮者、歌手、オーケストラ団員、音楽教師、合唱団員、バレエダンサーおよびその配偶者、未亡人が対象で、入居費用は年金の額などによって決まるのだとか。今では、入居者たちが施設内で音楽を楽しむほか、音楽家を目指す若い学生たちとのコミュニケーションの場にもなっているというのですから素敵です。これはまさに、今の時代を予見したかのような、ヴェルディの「先見の明」と言えるでしょう。日本においても、芸



クラシック・ソムリエ
田中泰さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スポーツニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

ART
ACTION
EVENT

アートワークショップ

現代作家さんを施設に招き、プロの作家さんの考えるアートをみなさんと一緒に作りましょう。



キュレーター
青木 彬 さん

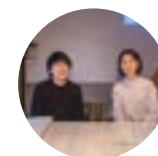
僕がセレクトしたアーティストはそれぞれみなさんの思い出を元にした創作ワークショップを行います。普段顔を合わせている人同士でも、これまでどんなところに住んでいたのか、どんな音楽が好きなのかなど、実は知らないことも多いのではないのでしょうか。手を動かしながらおしゃべりしてみると、新しい一面が見えてくるかもしれません。

#1 指人形をつくろう

12/22(木) 14:00～15:30
ばしょ:ダイニング



あなたの歩みと、たまたま居合わせた誰かの歩みが混ざり合ったら、どんな物語が生まれるでしょうか？ 自分以外の人とのコミュニケーションで生じるズレをもとに作品をつくるワークショップでは、自分と誰かの言葉をもとに、指人形づくりを行います。自分を振り返りながら好きな服装をさせてみたり、誰かの気持ちを想像したりしながら、自由に創作をしましょう！



せんせいのご紹介
アーティスト
佐藤 史治(さとうふみはる)さん
原口 寛子(はらぐちひろこ)さん

#2 光の箱をつくろう

12/29(木) 14:00～15:30
ばしょ:ダイニング



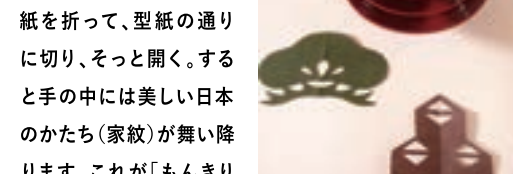
「光の箱」は光にかざすとそれが光の模様となって現れる不思議な箱で、光の種類や角度によってその模様が様々なに変化します。窓辺に置くと差し込む光によりとてもきれいに見えます。でも光を使うからと言っても特殊な機械や難しい作業をするわけではありません。誰でも簡単に作ることができます。光の美しさや面白さを楽しみながら、自分だけの光のアートを制作しましょう。



せんせいのご紹介
アーティスト/
東北芸術工科大学 総合美術コース 准教授
松村 泰三(まつむら たいぞう)さん

#3 もんきりあそび

23年1/5(木) 14:00～15:30
ばしょ:ダイニング



紙を折って、型紙の通りに切り、そっと開く。すると手の中には美しい日本のかたち(家紋)が舞い降ります。これが「もんきりあそび」。江戸時代にはじまり、昭和の初め頃までは図工の教科書にも載っていました。家紋は家の印であるだけでなく、日本の文様、デザインの基本の形、暮らしの中で使われ、そのひとつひとつには物語がいっぱい。そんな日本文化を学びながら、手を動かしてみましょう。できた形を使って、ハガキや団扇、小屏風などを作って一緒に楽しみましょう。



せんせいのご紹介
造形作家 もんきり、暮らしの手仕事、
伝承行事研究
下中 菜穂(しもなか なほ)さん

#4 石の島をつくろう

1/12(木) 14:00～15:30
ばしょ:ダイニング



様々な人が参加する体験型の作品を作っている今井さつきさん。今回は、小さな石に絵を描いて島を作っていくワークショップを行います。一人一人が作った島を海に見立てたテーブルに並べたり、島同士を繋げて大きな島を作ったりと楽しみ方は色々。あなたはどんな島を浮かべてみますか？



せんせいのご紹介
アーティスト
今井 さつき(いまい さつき)さん

#5 思い出の街を描こう

1/19(木) 14:00～15:30
ばしょ:ダイニング



人々の記憶をもとに実在しない都市を思い描いた作品を作っている金子未弥さん。今回は参加者の方々が過去に住んでいた場所にまつわる記憶を描くワークショップを行います。子供のころに住んだ家での記憶や、引っ越しをした時の気持ち、これまでの家での出来事を思い出してみましょう。

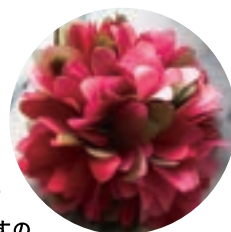


せんせいのご紹介
アーティスト
金子 未弥(かねこ みや)さん

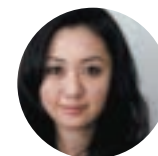
#6 造花をつくろう

1/26(水) 14:00～15:30
ばしょ:ダイニング

あらかじめ様々な色に手染めた花弁の中央の穴にワイヤーを通し、組み立て、シンブルな花の形に仕上げるワークショップです。私は作家です



自分の作品と向き合う時は「こうあるべき」というスタイルはありますがアートの楽しみ方を伝えるなら、正解や不正解はありませんので、人それぞれ自由に感じるままにその心の働きを大切にしたいです。参加者の皆様には作品の出来映えよりも、その制作過程や仕上がった時の喜びや楽しさを感じていただけたら幸いです。



せんせいのご紹介
造花工芸作家
岡田 歩(おかだ あゆみ)さん